



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2015年 No.3

(通巻40号)

6月28日発行



雨に映える紫陽花の美しい季節となりましたが、お元気でお過ごしでしょうか。

今号は、5月の活動のご報告と、7月、8月のイベントのご案内を中心にお届けいたします。

活動報告

*アフリカンフェスタ in ズーラシア

<http://africazoorasia.web.fc2.com/>

日時：2015年5月2日（土）～ 6日（水）（バオバブの会は3日に出演）

会場：よこはま動物園ズーラシア ころころ広場（横浜市旭区）

主催：アフリカヘリテイジコミティー <http://africaheritage.jp/>

「アフリカのサバンナ」ゾーンが全面オープンした記念イベントとして、動物園内の広場で開催。アフリカ各国料理、編み込みヘア体験、衣装レンタル、アーティストがその場で絵を描くコーナー、そして物販などのブースが建ち並ぶ中、ガーナ、コンゴ、ギニアの混合バンドによるライブも行なわれ、広場はアフリカ一色に。バオバブの会は物販コーナーにて、おなじみケベサック（セネガルのママさんグループ作成の布バッグやポーチ）、アフリカ関連絵本、小物などを販売しました。

主催団体のアフリカヘリテイジコミティーは、アフリカとアフリカにルーツを持つ国々の文化を紹介することとガーナの学校支援を目的に、これまでも多くのイベントを開いてきました。現在はガーナの漁村に学校を造るプロジェクトを進行中です。今回、バオバブの会は出展料のかわりとして、売り上げ金の15パーセントを、このプロジェクトに寄付いたしました。（文責：柳田）

*あーすフェスタかながわ2015

<http://www.earthplaza.jp/earthfesta/>

日時：2015年5月16日（土）～ 17日（日）

会場：神奈川県立地球市民かながわプラザ「あーすぷらざ」（横浜市栄区）

主催：あーすフェスタかながわ実行委員会

世界各国の文化紹介や相互理解を目的とした恒例のフェスタ。2度めの参加となったバオバブの会は、今回も「世界屋台村」と「ワールドバザール」に出展。屋台では、レモンの酸味が利いたチキンシチュー“ヤーサ”とピーナツソースのビーフシチュー“マーフェ”のサンドイッチ、西アフリカのドーナツ“ベニエ”、セネガル・スタイルのミントティー“アターヤ”を、バザールではケベサック、絵本、小物などを販売しました。とりわけ屋台は大盛況となり、料理、お菓子、お茶、どれも完売となりました。

（文責：柳田）

今後の出展イベント

*アフリカ日比谷フェスティバル

<http://hibiyafesafrica.web.fc2.com/>

日時：2015年7月11日（土）12日（日） 10：00～19：00（最終日は17：30まで）

会場：日比谷公園

東京メトロ丸ノ内線・千代田線「霞ヶ関」駅、東京メトロ日比谷線・千代田線「日比谷」駅、都営地下鉄三田線「日比谷」駅下車（A10・A14）出口すぐ JR「有楽町」駅下車 徒歩8分

主催：アフリカヘリテイジコミティー

*入場無料

5月のアフリカンフェスタ in ズーラシアと同じく、アフリカヘリテイジコミティーが主催するフェスティバルです。今回も、アフリカはじめ世界各国の料理のフードコート、各国の珍しい&カワイイ雑貨や民芸品が勢ぞろいのバザール、料理教室や手作りビーズ体験、ヘアスタイル体験や民族衣装体験、ドラム体験などの体験型ワークショップの他、こどもたちが楽しめるクイズ・スタンプラリー、伝統ゲーム体験コーナーなど、盛り沢山のイベントとなります。

バオバブの会は、フリーマーケットスペースに出展し、ケベサックと小物の販売を行います。

*平和・国際フェスタ ハートカフェ 2015

<http://palsystem-kanagawayume.lekumo.biz/weekly/2015/06/2015-19f4.html>

日時：2015年7月25日（土） 10：30～15：00

会場：ランドマークホール（ランドマークプラザ 5階）

神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1

JR・市営地下鉄「桜木町」駅から動く歩道で徒歩5分 みなとみらい線「みなとみらい」駅から徒歩3分

主催：パルシステム神奈川ゆめコープ地域活動支援課

*入場無料

パルシステム神奈川ゆめコープが年に一度開催する、平和・国際交流のお祭りです。平和や国際活動を行っている団体が出展し、フェアトレード商品の紹介や販売、国際協力の活動紹介を行います。

ステージでは、落合恵子氏講演会「子供たちのためにできること」10：30～11：30（要事前申し込み、詳細は下記）、野毛山幼稚園の卒園生による合唱「ぞうれっしやよ、走れ！」12：00～12：30、アフリカルチャーによるセネガル伝統ダンス公演13：00～13：30と14：00～14：30、ネパール伝統ダンス公演13：30～14：00が行われます。

その他、各国伝統料理や飲料の販売、絵本の翻訳シート貼りや切手の仕分けなどのボランティア体験、乳幼児の遊びの広場、小学生の夏休み自由研究に役立つ企画も用意されています。

バオバブの会は、アフリカルチャーさんとの共同出展で、ケベサック、絵本、小物の販売を行います。

* * * * * 落合恵子氏講演会「子供たちのためにできること」ご案内 * * * * *

定員240名（保育なし 子ども同席可）所要時間60分 入場無料

申し込み

① パルシステム神奈川ゆめコープHPの「イベント情報」で申し込み

② 専用用紙を主催者に請求（TEL045-470-6865 月～金10：00-17：00）し、FAXで申し込み

③ はがきに、企画名 申込№ 氏名（ふりがな）電話番号 〒住所を記入し、
〒222-0033 横浜市港北区新横浜 3-18-16 新横浜交通ビル 3F
パルシステム神奈川ゆめコープ 地域活動支援課 まで

*申し込み締切：①と②は7月19日（日）16：00 ③は7月17日

*ゴスペルスクエア7周年「GQ FESTIVAL！」

http://www.gospelhiroba.com/html/news_gqfes.html

日時：2015年8月2日（日）開場15：00 開演15：30

会場：渋谷区文化総合センター大和田内 さくらホール

入場料：前売り2,000円 当日券2,500円

子どもは、前売り・当日とも、小学生1,000円 未就学児500円（お膝の上での鑑賞は無料）

予約専用メールアドレス：gqfes@gospel-sq.com（お名前・人数をお知らせください。支払いは当日です）



〒150-0031 渋谷区桜丘町23番21号

アクセス1（徒歩にて） 渋谷駅から徒歩5分

アクセス2（バスにて）

大和田シャトル（ハチ公ー文化総合センター大和田）直行バス

ハチ公バス（タヤけこやけルート）コミュニティバス

※どちらもバス停「渋谷駅ハチ公」から乗車、次のバス停「文化総合センター大和田」下車。

← 地図は渋谷区文化総合センター大和田のHPより、
転載させていただきました。

ゴスペルスクエアは、「Sing in Unity, Live in Peace」（ひとつになって歌い、平和に生きよう）との活動理念のもと、2008年6月に渋谷でオープン。現在、年齢も職業も様々な500人が在籍しています。全国23拠点到に広がった支部と親子ゴスペルクラスを合わせたGQファミリーは約2,000人。日本最大規模のゴスペルグループに成長しました。今回、ゴスペルスクエア結成7周年を記念して、初の単独コンサートを開催します。大人数の迫力のハーモニーに、本場の黒人シンガー5人の歌声が加わる、楽しく豪華なステージです。

また、ゴスペルスクエアは、「ゴスペル×国際協力 ー楽しい時間のために使ったお金が、別の場所で大きな力になる」を掲げ、結成以来、様々な国際協力を行ってきました。

バオバブの会は2009年よりご支援をいただいています。今回も、支援5ヶ国5団体のひとつとして参加し、活動報告と、ロビーのブースにてケバサック、絵本、小物などの販売を行います。

その他イベント

*みなとグループセミナー 「セネガルにみるイスラムの教育と文化」

日時：2015年7月13日（月） 13：30～15：30

会場：横浜市神奈川区民センターかなっくホール内音楽ホール

JR東神奈川駅または京浜急行仲木戸駅より、徒歩1分

主催：国際交流ボランティア 「みなと」グループ

定員：60名

参加費：500円(お茶とお菓子付き)

申込み・連絡先：武田045-382-7864 曾我046-873-1362

締め切り：7月6日（月） 定員になり次第締め切りますので、お早めにお申し込みください。

神奈川県で、34年間、国際交流ボランティア活動を続けるみなとグループが開催するセミナーです。今回は、当会のディウフ会長が講師として招かれ、イスラム系学校にみる新たな教育活動を中心に、セネガルのイスラム教育と文化について解説します。

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★

第16回 「^{けんか}喧嘩」 — どのように起こるのか？ どうしたら避けられるのか？ —

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

(訳・文責 水野)

今回、この テーマを選んだのは、たまたま、次のような出来事があったからです。

ある日、私は職場の休憩室にいました。政治や国際情勢について議論するのが大好きな“ガイジン”の同僚たちが、いつになく静かでした。そのうち、新聞に目を通していたひとりの同僚が、長いため息をついて沈黙を破りました。

「いったい、世界では、どうして、こんなにたくさんの喧嘩が起きるのだろうか？」

すると、別のひとりが、「我々人間が愚かだからさ」と皮肉たっぷりに答えました。

また別の同僚は、「違うよ。我々が人間だからさ。動物は言葉を持たないから、喧嘩しないだろう？」と言いました。

さらに、別のひとりが反論しました。「いいや、動物だって彼らなりの言葉を持っている。我々の言葉と同じようには発達していないかもしれないが、確かに言葉はある。科学者が証明しているよ」

このように議論のテーマが「動物の言葉」に向かったところで、ひとりの同僚が、最初のテーマ、「喧嘩」に話を戻しました。「ところで、この話はどうして始まったの？ 新聞に、また、どこかの戦争のことも書いてあったのかな？」

最初に口を切った同僚が答えました。「そうじゃないよ。あるレストランで起きた喧嘩の話さ。最初はささいなことで始まったのに、最後はその中の一人が死んだんだってさ」

すると、別の同僚が言いました。「ほとんどの場合、喧嘩の始まりはささいなことさ。それに、多くの喧嘩は、避けようという気持ちが少しでもあれば避けられるものだ」

この最後の言葉で、私は、セネガルのウォロフの人々のことわざを思い出しました。「喧嘩が長引くのは、両者がそこに居続けるからだ」注1です。ブルキナファソでも、モシの人々が同じようなことを言っています。「言葉は次々に言葉を伴う」です。注2 また、ささいなことから喧嘩が始まることについては、ザンビアのルンダの人々が、「足を蹴られて喧嘩が始まる」注3 と言って、同僚の考えを裏付けています。

私は、このとき、頭の中でそれぞれの意見を整理するのに忙しく、発言できませんでした。けれども、「どうして喧嘩が起きるのか？」についての私の答えは、次のようになったと思います。「我々人間は、一緒に暮らしているからだ」。これは、ウォロフの人々の別のことわざからきています。「一つの井戸から水を汲む綱は、互いにかからまる」注4 です。ウォロフの人々が井戸を使えば、コートジボアールのディダの人々は、同じことを言うためにひょうたんを出します。「ひょうたんを一緒に繋ぐと、互いにぶつかり合う」注5 と。

これらのことわざが教えているのは、喧嘩は、一緒に暮らしている、または共に働いている人々の間で生まれる、ということです。しかし、人間は、他の人間と一緒に暮らすように定められていますので、喧嘩は避けられないということになります。したがって、すべては、喧嘩を解決したいという意志、また、できるだけ小さいうちに治めて、被害を少なくするようにしよう、という気持ちにかかっています。そのためには、どうしたらいいのでしょうか？

トーゴのバサールの人々が、ひとつの方法を提案しています。「お前が蛇を踏まなければ、蛇はお前を噛むことはない」注6です。これは、他の人々とは付き合うな、という意味でしょうか？だとしたら、私には、この方法は理想的すぎる、そればかりか、非現実的なものに思えます。なぜなら、たとえ、人間と蛇は異なる種類に属しているのも、異なる領域で生きていて、互いに付き合う必要がない、とされているとしても、踏み合うことはあり得るからです。その気はなくとも、ひとつの地球の上で生きていくというだけで、まして、人間はひとりでは生きていけません。必ず誰かを必要とします。ですから、ウォロフの人々は、率直に、バサールの人々に反論します。「足は地面の上にある。蛇も地面の上にいる。だから、いつかは必ず出会うものだ」と言って。それでは、喧嘩が起きそうになったとき、争いと被害が小さいうちに、早くことを治めるには、どうしたらよいのでしょうか？

ブルンジのフツの人々とカメルーンのフルベの人々は、話し合いを提案します。フツの人々は「言葉が怒りを妨げる」注7と言い、フルベの人々は「嫌っているのではなく、理解していないのだ」と言って。そして、ウォロフの人々は、このふたつの考えをまとめてこう言います。「誤解というものはない。対話がないか、または足りないということはある」

私の考えでは、良い人生を送るために、まずは喧嘩を避けることです。

人はしばしば、名誉や誇りが傷つけられたと感じた時、怒ります。しかし、この感情は、相手の行いか言葉を自分がどう判断したかの結果です。つまり、判断するのは自分なのですから、怒るか、悲しくなるか、無関心になるか、または愉快になるかは、すべて自分にかかっているのです。「誰かがお前に犬のえさ箱で食べると言っても、怒ることはない。その通りにしなければいい」とウォロフの人々は言います。簡単じゃないですか！

愛他主義、つまり他人を愛する心にあふれるブルキナファソのモシの人々は、喧嘩を避けるだけでなく、他の人々との間に平和を創りだそうと努めます。いつもにこやかに、愛想よく振る舞いながら。彼らの含蓄ある言葉は、次の通りです。「こうもりが雌つばめを口説くからといって、放浪の暮らしをやめる訳ではない」注8。自分の性格や信念を変えなくても、他の人を楽しませる、または少なくとも不愉快にさせないた

めに、愛想よく振る舞うということは、その気になればいつでもできるのです注9。

「いや、いつもという訳にはいかないね！」とあなたは言うかもしれません。

すると、私は、「確かに、そうですねえ」と答えます。

これでどうでしょうか？

注1：喧嘩を終わらせるためには、どちらかひとりが反論を諦めて、黙る力か知恵を持てばよい、という意味です。

注2：言葉は常に反論を呼び、反論はまた次の反論を呼ぶ、という意味です。

注3：足を蹴られたとしても、まず、転ぶことはありません。ちょっと意地悪な気持ちでやったのかもしれないし、ほんの冗談かもしれません。いずれの場合でも、転ばずに前に進むことはできます。その気になれば、気づかないふりをして、より不愉快な状況になるのを避けることもできます。

注4：互いに別々の井戸から水を汲む人々、つまり離れて暮らす人々の間には、争いは起こりません。一緒に暮らせば、どうしても喧嘩のタネが生まれます。

注5：アフリカでは、大きな丸いひょうたんを二つに割って、容器や楽器として使います。このことわざで、私は、ひょうたん売りの人々のことを思い出しました。彼らは、肩に担いだ長い棒の先にひょうたんを縛り付けて、村から村へと旅をします。彼らが歩くと、しばしば、肩のひょうたんがぶつかり合います。自転車を使って移動する人々もいますが、その場合でも、でこぼこ道にくると、ひょうたんがぶつかり合ってにぎやかな音をたてます。

注6：もし他の人に対して何もしなければ、喧嘩は起きない、という意味です。このことわざから、私は、子どもの頃のあるできごとを思い出しました。私は、小学生の頃、お祖父さんと一緒に暮らしていましたが、しばしば、お祖父さんを手伝って畑を耕しました。その日、ひと仕事終えたので、お祖父さんから木の陰で休むように言われました。ところが、その木に近づいた私は、跳び上がり、あわてて木から離れました。それを見たお祖父さんが尋ねました。「どうしたんだい？」私は答えました。「緑色の蛇がいた！」すると、おじいさんは言いました。「蛇は怖がることはない。もし蛇のほうが先にお前に気づいたなら、お前が見る前に、蛇はそっと逃げてしまう。先にお前が気づいても、そっとしておけば、蛇は攻撃してこないさ。それに、あれは、最も攻撃的でない、おとなしい蛇だよ」

注7：穏やかで明確な説明が、怒りを鎮める、という意味です。

注8：このことわざは少しわかりにくいかもしれませんが、こうもりの習性はまだ完全に解明されていませんが、一般的に、神出鬼没、放浪好き、と言われていています。一方、つばめは、寒い時期には南の国に行き越冬しますが、ふだんは民家の軒下などに作った自分の巣で暮らしますので、定住性があると言えます。したがって、このことわざは、こうもりがつばめと付き合うために自分の習性を変えることはないように、自分の性格や信念を変えなくても、他の人に対して愛想よく振る舞うことができる、ということを行っています。

注9：これは、私が、信仰について私とは違う解釈を持っている人と議論をするときのテクニックです。

バオバブの会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35

TEL&FAX 045-373-0059 HP:<http://the-baobab.org>

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱東京UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no.1523673

ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215